

平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

つかはら にしぞう
《 塚原 二四三 1887～1966年 》
—福井県出身の海軍大将—



元山海軍航空隊戦闘詳報 (登録番号：⑤航空関係-戦闘詳報・戦時日誌-6)

塚原二四三大将は、明治41年11月、海軍兵学校(36期)を卒業後、昭和16年9月10日、フィリピン・マレー攻略の上陸支援部隊である第11航空艦隊司令長官に就任します。そして昭和16年12月8日の開戦後、塚原中将の率いる第11航空艦隊はフィリピンへの奇襲爆撃やマレー沖海戦で大戦果を重ねます。なかでも昭和16年12月10日、第11航空艦隊の元山海軍航空隊、美幌海軍航空隊、鹿屋海軍航空隊の中型陸上攻撃機75機は、日本軍のマレー半島上陸を阻止するため出撃した英国極東艦隊主力の新鋭戦艦プリンス・オブ・ウェールズ及び戦艦レパルスをマレー沖で撃沈します。この史料は「元山海軍航空隊戦闘詳報(馬来沖海戦)」で、戦艦に対する航空機の優位を実証したこの海戦の記録が綴られています(他に「馬来沖海戦参加搭乗員手記」(登録番号：①日誌回想-540))。



横鎮第一特別陸戦隊戦闘詳報 (登録番号：④艦船・陸上部隊-戦闘詳報・戦時日誌-350)

塚原第11航空艦隊司令長官は、開戦翌年の昭和17年1月7日、指揮下の海軍空挺部隊・横須賀鎮守府第一特別陸戦隊(通称号：第1001部隊)に対し、セレベス島の敵飛行場を制圧し、同島北端のメナドを攻略するよう命令します。これを受けた第1001部隊司令の堀内豊秋中佐は、1月11日に2個中隊334名を、12日には後続の1個中隊74名を輸送機に分乗させ、ミンダナオ島のダバオ飛行場を離陸、セレベス島に落下傘降下後、海岸から上陸した佐世保鎮守府特別陸戦隊と連携してメナドを攻略します。これが日本軍最初の空挺作戦で、陸軍のパレンバン空挺作戦の成功をまって、2月15日に同時発表されました。この史料は「横鎮第一特別陸戦隊戦闘詳報」で、メナド攻略作戦の詳細が記録されています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)
外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>